

コード No. 18642

**Anti-Human  
14-3-3  $\sigma$  Protein (C) Rabbit IgG Affinity Purify**容量 : 100  $\mu$ g

- はじめに : 14-3-3 タンパク質は細胞内に豊富に存在する分子量約 28kDa の二量体タンパク質で、酵母や植物からほ乳類に至るまで高度に保存されたアミノ酸配列を持っています。14-3-3 タンパク質は7種のアイソマーとして、 $\beta$  (ベータ),  $\gamma$  (ガンマ),  $\epsilon$  (イプシロン),  $\zeta$  (ゼータ),  $\eta$  (イータ),  $\sigma$  (シグマ),  $\tau$  (タウ)が存在し、それぞれ細胞内でのシグナル伝達に深く関わっているといわれています。また 14-3-3 タンパク質は、Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD)患者の脳脊髄液に著明に増加するタンパク質として注目されています。さらに、CJD 患者だけでなく中枢神経症状を伴う HIV 患者の約60%の脳脊髄液に 14-3-3 タンパク質が検出され、正常人では全く検出されないことも報告されています。  
14-3-3 $\sigma$  (シグマ) は DNA 損傷に伴い p53 により発現が誘導され、G2 期に cdc/cyclinB1 複合体と結合し、複合体の細胞質から核への移行を阻止、不活性化します。その結果、細胞周期を G2/M 期に停止させる働きを持つことが報告されています。
- 免疫抗原 : Human 14-3-3  $\sigma$  Protein の C 端部分合成ペプチド
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100  $\mu$ g/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~3  $\mu$ g/mL にて使用可能  
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片 : マイクロウエーブ処理 (10 mM クエン酸緩衝液 pH6.0, 10 分)  
: ウェスタン・ブロッティング 1~3  $\mu$ g/mL にて使用可能
- 特異性 : Human 14-3-3  $\sigma$  と特異的に反応し、Human 14-3-3  $\beta$  (ベータ),  $\gamma$  (ガンマ),  $\epsilon$  (イプシロン),  $\zeta$  (ゼータ),  $\eta$  (イータ),  $\tau$  (タウ)とは反応しません。(ウェスタン・ブロッティングにて確認)
- 参考文献 : 1. Hermeking H, Lengauer C, Polyak K, He TC, Zhang L, Thiagalingam S, Kinzler KW, Vogelstein B. 14-3-3 sigma is a p53-regulated inhibitor of G2/M progression. Mol Cell. 1997 Dec; 1(1): 3-11.  
2. Chan TA, Hermeking H, Lengauer C, Kinzler KW, Vogelstein B. 14-3-3 Sigma is required to prevent mitotic catastrophe after DNA damage. Nature. 1999 Oct 7; 401(6753): 616-20.  
3. Nakajima T, Shimooka H, Weixa P, Segawa A, Motegi A, Jian Z, Masuda N, Ide M, Sano T, Oyama T, Tsukagoshi H, Hamanaka K, Maeda M. Immunohistochemical demonstration of 14-3-3 sigma protein in normal human tissues and lung cancers, and the preponderance of its strong expression in epithelial cells of squamous cell lineage. Pathol Int. 2003 Jun; 53(6): 353-60.

コード No. 18642

**Anti-Human  
14-3-3  $\sigma$  Protein (C) Rabbit IgG Affinity Purify**容量 : 10  $\mu$ g

- はじめに : 14-3-3 タンパク質は細胞内に豊富に存在する分子量約 28kDa の二量体タンパク質で、酵母や植物からほ乳類に至るまで高度に保存されたアミノ酸配列を持っています。14-3-3 タンパク質は7種のアイソマーとして、 $\beta$  (ベータ),  $\gamma$  (ガンマ),  $\epsilon$  (イプシロン),  $\zeta$  (ゼータ),  $\eta$  (イータ),  $\sigma$  (シグマ),  $\tau$  (タウ)が存在し、それぞれ細胞内でのシグナル伝達に深く関わっているといわれています。また 14-3-3 タンパク質は、Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD)患者の脳脊髄液に著明に増加するタンパク質として注目されています。さらに、CJD 患者だけでなく中枢神経症状を伴う HIV 患者の約60%の脳脊髄液に 14-3-3 タンパク質が検出され、正常人では全く検出されないことも報告されています。  
14-3-3 $\sigma$  (シグマ) は DNA 損傷に伴い p53 により発現が誘導され、G2 期に cdc/cyclinB1 複合体と結合し、複合体の細胞質から核への移行を阻止、不活性化します。その結果、細胞周期を G2/M 期に停止させる働きを持つことが報告されています。
- 免疫抗原 : Human 14-3-3  $\sigma$  Protein の C 端部分合成ペプチド
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 0.1 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 0.1 mL 添加(この時濃度は 100  $\mu$ g/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~3  $\mu$ g/mL にて使用可能  
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片 : マイクロウエーブ処理 (10 mM クエン酸緩衝液 pH6.0, 10 分)  
: ウェスタン・ブロッティング 1~3  $\mu$ g/mL にて使用可能
- 特異性 : Human 14-3-3  $\sigma$  と特異的に反応し、Human 14-3-3  $\beta$  (ベータ),  $\gamma$  (ガンマ),  $\epsilon$  (イプシロン),  $\zeta$  (ゼータ),  $\eta$  (イータ),  $\tau$  (タウ)とは反応しません。(ウェスタン・ブロッティングにて確認)
- 参考文献 : 1. Hermeking H, Lengauer C, Polyak K, He TC, Zhang L, Thiagalingam S, Kinzler KW, Vogelstein B. 14-3-3 sigma is a p53-regulated inhibitor of G2/M progression. Mol Cell. 1997 Dec; 1(1): 3-11.  
2. Chan TA, Hermeking H, Lengauer C, Kinzler KW, Vogelstein B. 14-3-3 Sigma is required to prevent mitotic catastrophe after DNA damage. Nature. 1999 Oct 7; 401(6753): 616-20.  
3. Nakajima T, Shimooka H, Weixa P, Segawa A, Motegi A, Jian Z, Masuda N, Ide M, Sano T, Oyama T, Tsukagoshi H, Hamanaka K, Maeda M. Immunohistochemical demonstration of 14-3-3 sigma protein in normal human tissues and lung cancers, and the preponderance of its strong expression in epithelial cells of squamous cell lineage. Pathol Int. 2003 Jun; 53(6): 353-60.